

AEDの使用手順

- 心肺蘇生を行っている際に、AEDが届いたらすぐにAEDを使う準備を始めます。
- AEDにはいくつかの種類がありますが、どの機種も同じような手順で使えるように設計されています。
- AEDは、電源を入れると、音声メッセージと点滅するランプで、あなたが実施すべきことを指示してくれます。
- AEDを使う準備をしながらも心肺蘇生をできるだけ続けてください。

1 AEDの準備と装着



(1) AEDを傷病者の近くに置く

- ・AEDを傷病者の近くに置きます。
- ・ケースからAED本体を取り出します。

(2) AEDの電源を入れる

- ・AED本体のふたを開け電源ボタンを押します。
(ふたを開けると自動的に電源が入る機種もあります。)
- ・電源を入れたら、それ以降は音声メッセージと点滅するランプの指示に従って操作します。



(3) 電極パッドを貼る

- ・傷病者の衣服を取り除き、胸をはだけます。
- ・電極パッドの袋を開封し、電極パッドをシールから剥がし、粘着面を傷病者の胸にしっかりと貼り付けます。
- ・電源パッドのケーブルを接続するために、ケーブルのコネクタをAED本体の差込口に差し込みます。



電極パッド



電極パッドを貼り付ける位置

AEDの使用手順

ポイント

- AED本体に成人用と小児用の2種類の電極パッドが入っている機種や成人用モードと小児用モードの切替えがある機種があります。その場合には、小学生以上（小学生を含む）には、成人用の電極パッド（成人用モード）を使用し、未就学児には小児用電極パッド（小児用モード）を使用してください。小学生以上には、小児用電極パッド（小児用モード）は使用しないでください。

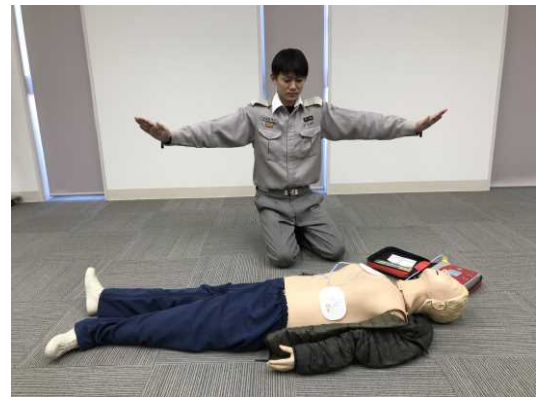
傷病者の区分	小学生以上	未就学児
電極パッドで使い分ける種類（※）	成人用電極パッド	小児用電極パッド
電極モードを切り替える機種	成人用モード	小児用モード

※AED本体に小児用の電極が入っていない場合には入っている電極パッドを使用します。

- 電極パッドは、胸の右上（鎖骨の下）及び胸の左下側（脇の5～8 cm）の位置に貼り付けます。
- 電極パッドを貼り付ける際にも、可能であれば胸骨圧迫を実施してください。
- 電極パッドは、肌との間に隙間を作らないように、しっかりと貼り付けます。アクセサリなどの上から貼らないように注意します。

2 心電図の解析

- 電極パッドを貼り付けると「体に触れないでください」などと音声メッセージが流れ、自動的に心電図の解析が始まります。このとき、AEDの操作者は「みなさん離れて！」と注意を促し誰も傷病者に触れていないことを確認します。
- AEDは、電気ショックを行う必要があると解析した場合には「ショックが必要です!」、必要ないと解析した場合には「ショックは不要です!」などの音声メッセージを流します。
- 「ショックは不要です!」と言った音声メッセージの場合は救助者は直ちに胸骨圧迫を再開します。



解析中は音声メッセージに従い離れる

3 電気ショック

- AEDが、電気ショックが必要と解析した場合は「ショックが必要です」と言ったメッセージとともに自動的にエネルギーの充電を始めます。充電には数秒かかります。
- 充電が完了すると「ショックボタンを押して下さい」と言った音声メッセージとともに、ショックボタンが点灯して、充電完了の連続音が出ます。
- AED操作者は「ショックを行います。みんな離れて!」と注意を促し、誰も傷病者に触れていないことを確認して、ショックボタンを押す。



ショックボタンを押す

AEDの使用手順

ポイント

- AEDの操作者は、ショックボタンを押す際には、必ず自分も傷病者から離れ、誰も傷病者に触れていないことを確認します。
- 電気ショックによって、傷病者の腕や全身の筋肉がけいれんしたように一瞬ビクッと動きます。

4 心肺蘇生の再開

- 電気ショックを行ったら、直ちに胸骨圧迫を再開します。

ポイント

- AEDを使用する場合でも、AEDによる心電図の解析や電気ショックなど、やむを得ない場合を除いて、胸骨圧迫の中断をできるだけ短くすることが大切です。



直ちに胸骨圧迫を再開

5 AEDの使用と心肺蘇生の継続

- 心肺蘇生を再開して2分ほど経ったら、再び、AEDが自動的に心電図の解析を行います。音声メッセージに従って傷病者から手を離し、周りの人も傷病者から離れます。
- 以後は、心肺蘇生とAEDの使用の手順を、約2分間おきに救急隊員が到着するまで繰り返します。

参考

☆心肺蘇生を中止するときは☆

- ①救急隊に引き継いだとき
救急隊員が到着したら、傷病者の倒れていた状況、実施した応急手当て、AEDによる電気ショックの回数などをできるだけ詳しく伝えます。
- ②傷病者が目を開けたり、あるいは「普段どおりの呼吸」が出現したとき
心肺蘇生をいったん中止し、慎重に傷病者を観察しながら救急隊を待ちます。この場合でも、AEDの電極パッドははがさず、電源も入れたままにしておきます。

AEDの使用手順

参考

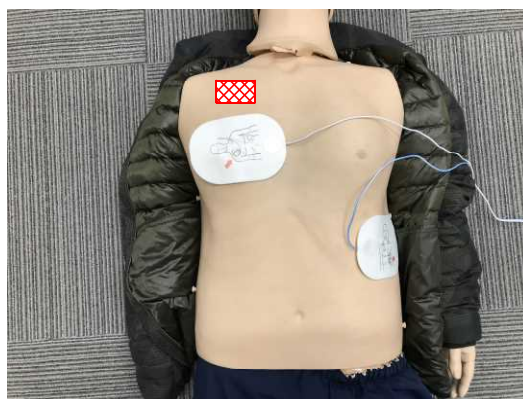
☆こんな場合のAEDの使用方法☆

①電極パッドを貼る場合

- 傷病者の胸が濡れているとき
濡れているときは、タオルなどで拭き取ってから電極パッドを貼ります。
- 胸に貼り薬があり、電極パッドを貼る際に邪魔になるとき
胸に貼る薬で、電極パッドを貼る際に邪魔になるものとして、ニトログリセリン製剤やぜんそく薬などがあります。これらの薬が貼られている場合は、それを剥がして、肌に残った薬剤を拭き取ってから電極パッドを貼ります。
- 心臓ペースメーカーや除細動器が胸に植込まれているとき
胸の皮膚が盛り上がり、下に固いものが触れるので分かります。電極パッドを貼る位置に心臓ペースメーカーや除細動器の引っ張りがあるときは、そこを避けて電極パッドを貼ります。



胸が濡れている場合



ペースメーカーが植込まれている場合

☒ = ペースメーカー

②電気ショックの適応がない場合

- 心電図の解析後に「ショックは不要です！直ちに胸骨圧迫を開始してください」などの音声メッセージが流れたら、電気ショックが必要のない状態です。この場合には、メッセージに従って直ちに心肺蘇生を再開します。心肺蘇生を再開して2分ほど経ったら自動的にAEDが心電図の解析を行いますので、音声メッセージに従ってください。